

戦闘

ウォー・ガインノイド

人形の使命

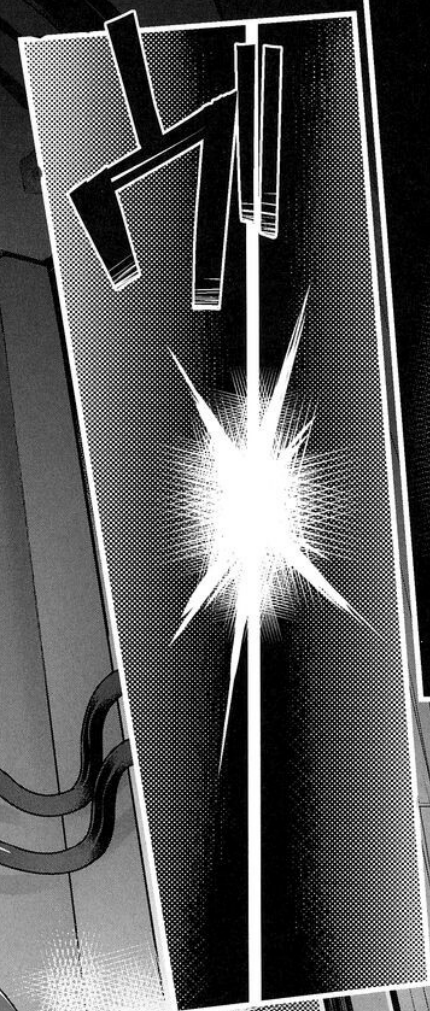
女姦

18
ADULT ONLY



... - 10 - ...

...



... ..

... ..

...



...

光... .. ?

...

……正規の
開放手順が
無視されて
いる

行動開始する

……
異形種反応を
複数感知

状況を何らかの
異常事態と認識

緊急覚醒
シークエンス……
スリープ
モードを解除



：身体可動
靈気炉の出力共に
問題なし

しかし——

この地下施設にまで
異形種の侵攻が……？

私を起動させる
間もなく……

生存者の反応は
確認出来ず

あらゆる
命令系統も途絶

まずは状況の
把握に努める……

無駄——

OSGシリーズは
性感を持たない

ズッ
ズッ
ズッ

FWッ

異形種

古来より存在する
人類の敵性生物

通常兵器は通用せず
対抗するには
ヒト種が体内に持つ
霊気脈

そこから練り上げた
霊力を用いる他ない

魔導士 退魔師
討魔忍……

霊力を扱える
一部の能力者達が
古くから異形種を
討伐して来た

だがある時期を境に
異形種は恐るべき
進化を果たす

本来なら自身を
滅ぼす筈の霊力を
「淫化」させ
自らの糧とする
変種が現れたのだ

人類を犯し喰らう
変種は爆発的に
数を増やし

世界の大部分を
侵食してしまう

もう一握りの
能力者だけでは
とても対処できない

能力者が淫化
させられてしまう
危険すらも……

だから私達が
作られた

ヒトを元にした
ヒト以上の霊気脈
それを増幅する
霊気炉を持ちながら

淫化要因である
性官能を排除された
戦闘人形
ウイカイド

Obedient
Struggle
Gear
シリーズ

そう……
今もあなたの姉達が
異形種の侵攻を
抑えてくれているわ

命を懸けて……

……?

私達は
異形種を駆除し
人類を守る
為の道具


当然のこと

ええ……
そうよね……

そう
作られている……

けれども——





状況を確認：
既に周辺一帯は
敵のテリトリーに
のまれ

かなりの
時間経過が
見られる

：接近する
異形種反応を
多数確認

人類の
生命反応は—

——反応は1名

異形種を駆除し

人類を守る

命令の無い今

それが
私の役目

前方約53 km

異形種

知的生命体の進化と共に湧き出したとされる敵性存在。

姿かたちは様々だが、どれも一様に人間含む生物全般を餌としている。

靈力を介さない物理攻撃は効果が薄く、例え消し炭にしようと再生してしまう為、軍事力を以てしても時間稼ぎにしかならない。

その特性から、異形種の討伐は古くより靈力を操れる戦闘能力者の生業であった。

異形種の数にはさほど多くもなく、それで平和は保たれていた。

異形種(変種)

だがその靈力に対応した変種が現れる。

靈力の源である靈気脈を快楽によって変質させ、淫化した靈力そのものを栄養源にしてしまうのだ。

靈力・靈気脈

人体を巡る特殊なエネルギーの流れは靈気脈と呼ばれ、神経系や体内器官と深く関わっている。これを操ることで靈力を発揮した能力者は、常人を遥かに超える身体機能や討魔手段を得る。

靈気脈自体は能力者に限らず全ての人間が備えている為、それらを糧にし始めた変種の増殖は人類の防衛力を容易に上回った。

OSGシリーズ


そこで生み出されたのが

従順なる戦闘人形
Obedient Struggle Gearシリーズである。

靈力を持ちながら官能を持たない人形兵器たちは変種に対し大きな有効性を示した。

だがその量産が開始された時点で既に異形種の数、及び増殖速度は、OSGシリーズを以てしても処理しきれない規模にまで膨れ上がっていた。

以降、人類と異形種の戦いはギリギリの所で膠着状態となっている――




目覚めるや否や
斥候隊を蹴散らし

地上へ
飛び出る



その悉くを撃破



膨大なエネルギーを
察知した異形種の群れが
押し寄せるも

このエリア
最大級に進化した
異形種ですら

まるで
相手にならない

そして
勢いそのまま
我々のコロニーへ
到達し――



——瞬間に半壊

全く恐るべき
戦闘能力です

人類が
我々を滅ぼすべく
生み出した
人形兵器
OGSシリーズ…

斥候隊が死ぬ前に
送った情報からすると
どうやら貴女は
最終調整中の新型
だったようですね

ですが
保護対象への対応は
旧来通り…

助かりましたよ

連絡を受け用意した
「コレ」が効かなければ
全滅もあり得た
でしょう

『人質』^{ヒトシ}を守るの^{まも}は
OSGの基本原則

お察しの通り
私は異形種です

壊れた
OSGのボディ……

その
言語中枢を利用し
喋っています

それを
解除してくれる
指揮系統も
今の貴女には無い





ズ
ズ
ズ

：異形種の
知性については
研究されていたは



変種が現れて以降
知能の上昇が
顕著であると
危惧されていたが



……
その人間の
安全を

人語を解する
レベルであるとは
想定以上

惜しい事ですが

このOSGは
もう完全に霊気炉を
停止しています

—何らかの
信号を送っている
ようですが
無駄ですよ



勿論ですよ
貴女に対する
大切な
歯止めですからね

ニ
ニ
ニ

ニ
ニ
ニ

ちゅっ。

あのカプセル：
無理に破壊すると
中の保護対象に
危険が及ぶ
可能性が高い…

霊子測定で
構造を解析し
安全に救出する
方法を—

…それに
我々にとって

もはや人間などより
貴女達の方が
魅力的な
存在なのですから

このボディの
霊力を当てにして
いるなら無駄

OSGの
霊力システムは
淫化不可能

未淫化の霊力は
変種の餌には
ならない

さて…それは
どうでしょう

試してみなければ
分かりませんよ
……？

アキ

神経系に異常

未知のアクセス

即時修正を

しかし…
…今の…
…は…
…一体…
…?

—もうレジストされてしまいましたか

一気に絶頂まで持っていくつもりでしたが…

さすがは新型ですね

すする...

うっ
うっ
うっ

人間であれば
発狂する濃度の
媚毒を浴びようと

何の反応も
示さないよう
造られている...

確かに
貴女達OSGには
性感がない

我々がその身体を
如何に這い回ろうと

しかし
その身体構造が
ヒトの雌を模している
のは事実です

神経網などは
ヒトを遥かに超えた
高密度で張り巡ら
されている...

生殖器の構造自体が
靈気脈の生成に
必要な要素だからです

ただ我々の手に
落ちる危険を
見越してでしょう

官能を認識する
経路だけは綺麗に
省かれていた...

そう...
だから...

この感覚は...

不可解な...

その経路を
構築する術を
我々は会得した
のですよ

それがこの
深蝕……

っ
!?

レジストは
されまじが
それでも十分な
官能経路が
開いたようです

このまま
外側からも
快感を発生させ
続けられ

経路はより
確かなものとなり

貴女の身体は
淫化霊力の源として
この上ないモノと
なるでしょう

官能……

これが……
…快感…!?

危険…!!
…この感覚は…
…ツ

撃破
脱出を—

霊子放射
保護対象の
現在位置を特定…

—否!!!

保護対象者を
放置する許可を
認められて
いない…ツ!!

—うあッ!?

カプセルごと奪取し
安全圏まで移送…

しかし…
単機では…

測定ッ

エライッ

防壁が弱まっていますよ

何か余計な事へ演算能力を割いているのでしょうか？

神経…侵食率…増加ッ…

止まら…な

オーガズムを迎えたようですね

…素晴らしい

漏れ出す靈気ですらこれ程までに濃厚な…



想像以上の
味わいです！

オーガズム…ツ

霊気脈の
淫化プロセス
……ツ

停止…不能！

さあどう
しましたか？

防壁が
疎かなままで
オーガズムは
止まりませんよ

危険…ツ

「これ」が
続くのは—

は…反撃ツ…

対象…ツ

保護…お—

ふふ…
未知の感覚に
対処も覚束ない
ようですね

本来ならば
発生し得ない感覚…
無理ありません

ですが…貴女の
身体はまだ経路が
開いただけ—

しかし—

そのボディが
秘めたる快樂は

まだまだ
そんなモノでは
ありませんよ



不可…解……ッ

OSGの
基幹システムは
最重要機密

いかに
異形種の知能が
高まったとはいえ
……ッ

何故こうも……
容易……ッ

あ……

駄目……ッ

……思考……

意識が

……そんな……ッ

それじゃあ
ファイオは……
……いえ

調整中のF-10は
どうなるのです!?

彼女だけ
じゃない

多くのOSGが
今この瞬間も
人類のために――

その人類を
生かすための
決断だ

承服して
貰いたいな
博士

F-10タイプ
生産の用途が
立てば
この戦況も覆る
はずだ

それを……ッ

……と
言い切れない以上
賭けであることに
変わりはない

絶対

君も

我々の方針もな

それは……
理解して
いますか……

そして我々は
より可能性の
高い方を
選択しなければ
ならない
立場にある

納得出来ない
君の気持ちも分かる……
だがこれはすでに
決定事項なのだ

!!!

—おやお目覚めですか

……不覚

負荷への対処で意識レベルが低下していた…

そんな勿体ない事はしませんよ

肉壁に包まれ
霊子探知が困難…

だが保護対象の
マーカ―だけは
決して見失わない

オモオモ

ほんの数分の間ですが
機能不全を起こして
いたようですね

対象は上方へー
いや私が地下へと
運ばれている…?

…その間に私を
破壊出来たはず

何故…
そうしない

言ったでしょうー





魅力的な
存在であると



幾重もの
試行錯誤の果てに
培われた
技なのですよ

徐々に
両獲していった
彼女達の
身体を使い

異形種に犠牲を
出しながらも



貴女たちは
とても



当然
容易い事では
ありません

深蝕でOSGの
官能を拓く...

地上の様子からある程度予測していたがまさか

私の調整中にここまで戦況が悪化していたとは……

これだけの数のOSGが敵の手に落ち

淫化靈力の発生器にされるのは深刻な事態

…だがこのOSG達は異形種に操られた先の個体と違い

戦闘能力の低下は見られるが変種を敵性と認識し淫化への抵抗を試みている

ならば――

F-10より各機へ

私は今より
この空間を制圧し
そのまま
敵を引き付ける

各機は解放後
指定座標の保護対象を
カプセルごと確保し

フフフ…

速やかに

また
何か企んでいる
ようですね…

…なんだ?!
これは…ツ

「快感」が…ツ
強過ぎる—

ですが…
その身体で
実行出来るもの
でしょうか?

先程までとは
比べ物にならない
快感でしょう

神経…
快…変…ツ!?

いまや貴女の全身が
媚毒漬けにされた
クリトリスそのもの

貴女が意識を
失う原因となった
最後の深蝕…

「そこ」を基準に
貴女の神経網は
快楽を受容する機能へと
最適化されたのです

何処を
触れられようと
オーガズムからは
逃れられず

今度は気絶も
出来ません

貴女が気絶している間に
『神経快変』が施されました
からね

さあ—

こん…な…ツ

貴女も
仲間達と共に

淫化プラントの
一部となるのです

淫化靈力が…
溢れる…ツツ

オーガズ…ム…ツ
抵抗…ツ

不能…ツ

急がなく
ては…ツ!!



この状況に……ッ

か……完全に
取り込まれる
前に……ッ

……作戦を……
……実行……ッ

霊気炉
稼働……

保護対象及び
各OSGを

開放する
力を……

も……もう
猶予は……

無い……

……ゆ……
……は……
……猶予……

無……い……
……の……に……ッ

……の……に……ッ

こ……これが
《神経快変》……ッ

ま……まるで
全身の神経が
触手に侵されて
いるようで……ッ

……触覚だけ
じゃない……ッ

さ……些細な
身体駆動すら……ッ

絶……頂……の

引金……に……

フフフ……



貴女たちは皆そう

これ程の快楽を生み出せる身体を持ちながら

己の使命がゆえにどこまでも苦しみを抗い続ける……

!!?!

最高密度の霊脈器官……ッ

そこは……危険過ぎる……

称賛するか

それとも哀れむべきでしょうか？

異形種と人類の戦いなど

とうの昔に終わっているというのに

ほ……他を捨てても……ッ

陰核体へのダメージだけは……ッ

抵抗……を

じゅる……

じゅる……

じゅる……

フフ…

眠っていた貴女が
知らないのは
無理もない

人類は
この星を—

貴女たちを捨て
彼方へ
旅立ったのですよ

何を

……？
言っている

およそ
100年前にね

OGS基幹部との
接触には特殊な
アクセスコードが
必要です

如何に我々として
その解析は不可能に
思えました……が

人類が辛うじて
膠着状態を
保っていた当時

上昇する異形種の
知能レベルを見て取った
人類の上位者が
我々とのコンタクトを
試みたのです

「生き残った人類は
この星から出ていく」

「計画を邪魔せずに
いてくれたならば
君達にも十分な
見返りがあるだろう」

抵抗力を削ぐ為の
ブラフ……!?

いや……
しかし——

ならば
応じるべき取引だと
思いませんか？

あの当時
すでに世界人口は
最盛期の1割にも
届かず

もはや全てを
喰らったとしても

増え過ぎた
我々の餓えはとても
満たされない……

貴女たち1機の霊力は
100万の人間にも勝り

耐久力に至っては
比較にもならない

それがこの星に
何万と取り残される
のですから

フフ……勿論
先ほど言った
ように

深蝕を
成すまでには
苦勞もあり
ましたが

その為の実験も
好きだけ行うことが
出来ました

OSGに
命令を下す存在は
みな宇宙の彼方へ消えて
くれましたからね

人命保護の
絶対コマンド

皆...それに
縛られて
...?

しかし...
それならば

か...
彼女は...

あの人質の
存在は...どうなる
...ツ

あの反応は...
ま...間違いなく
人間の...ツ

...ああ

失礼
説明が足りません
でしたね

確かに
ほんの僅かですが
この星に残された
人間はいました

ごく最下層に
位置したと
思しき人間…

または

この星を
捨てることが
出来なかった人間
などです

良い子ね
ファイオ

おや…
お知り合い
ですか？

これも人類の
置き土産といつた
所でしょうか

そのお陰で
我々の実験を有利に
進めることが
出来たのですから

彼女はこの一帯で
唯一残された人間

丁重に保護
していますよ

博…士……？

大量の淫化霊力を
霊気脈に
流し続けることで
捕獲時のまま

疑似的に
肉体を維持
させています

もつとも
精神の方は
死んだも同然

彼女自身から
得られる霊力も
搾りカスに
過ぎませんが

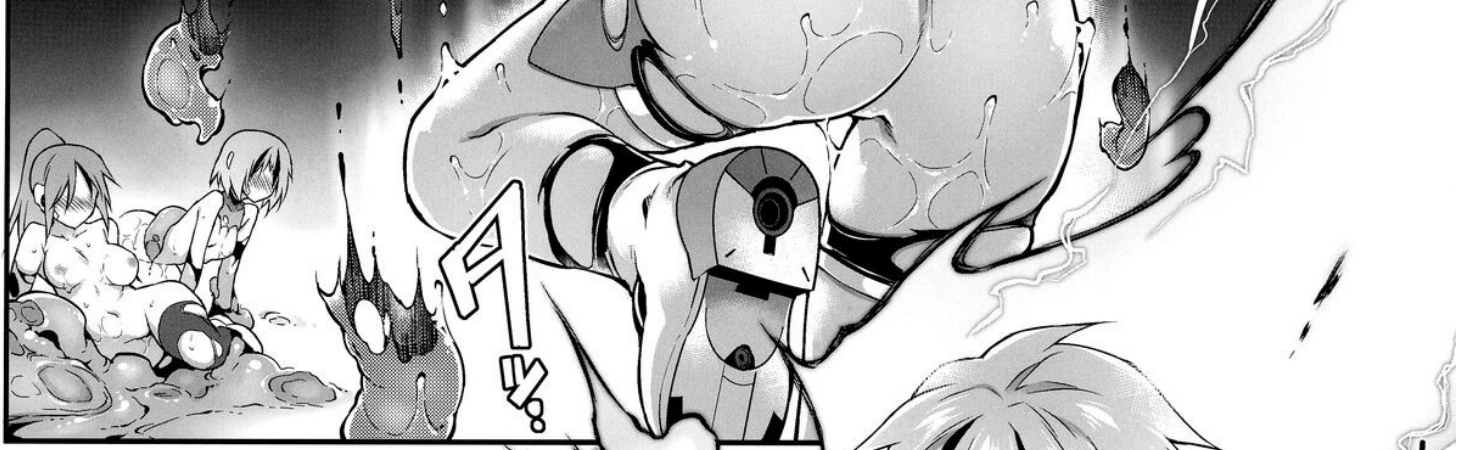
あなたから
OGSから
回収出来る
霊力を思えば
微々たる—

!?

ああああ

!!!

!!!



アッ!

F10より
各機へ

この場は
私が
制圧する……!

回線を
閉じる!

駄目だ!

だ……

動ける者は
手筈通り
博士を――

保護対象の
カプセルを奪取し
離脱願う!

今は……
お前だけでも
脱出を……!

早く――

……
!?

皆何を



……驚……きま
た……よ……



カキルルル

「これ…ッ」

触るッ…な…ッ

…は…ッ

放…せ…ッ

だ…駄目だッ



フフ…
大きな焦りが
伺えます

「敢えて」
捕まっていた
これまでと
違う…

霊波通信…!?

異形種が

本当の危機を
感じて
いるのでしょうか…

ひび

—ええ

貴女との感応に
必要な霊基IDを
ようやく解析
出来ました

貴女の通信を
3度観測させて
頂いたお陰でね

これで
会話用のボディ
無しでも
お話出来ますし
……

こうして周囲の
OGSたちと
貴女を繋げることも
可能となった……

あーあーあーあー
あーあーあーあー
あーあーあーあー

繋…げ
…ッ!?

『淫化ネット』

OSG同士に
張り巡らせた
リンクを
経由して

貴女は今
皆の快樂情報
を共有して
いるのです

な…ゼツ…

そん…ッ

フフ…ようやく
良い嬌声を上げる
ようになりましたね

理由など
明白でしょうっ

より多くの

より
高純度の

淫化靈力を
生み出す為です

貴女たちを繋げる脳内画像……

このリンクパターンが何を示しているか解りますか？

そう
陰核体
クリトリス

霊気脈の要です

OSGシリーズのネットワークを神経網に見立てることで

疑似的に再現した
霊気脈……

貴女たち全体がいまや巨大な一個の性感帯なのです

そしてそこを駆け巡る快樂情報を集約し統括する――

――それが
貴女の役目

ぜ……全身に……
エラー……ッ

コントロール……が……

利か……

ない……

み…皆の
快感…が…ッ

これまでの実験では
コアユニット化に
完全に耐えられない
OSGがいなかった

かつて
隊長機として
複数のOSGを
統率する能力を持った
「彼女」ですら

私の…と…
重なッ…ッ…
途…切れな
ッ

僅か数百体と
リンクしただけで
壊れてしまいました
からね…

ですが
貴女なら

その性能を
十全に開放し

このままでは—
ッ…

より最適化
して行ければ



—夢ではない

このままでは
本当に……ッ

この地下に捕らえた
OSGのみならず

……ッ
落ちてしまう

イツ……ぐ♡
……うあああ♡
駄目ええッ♡

おっ♡お♡

快^{かえ}変るなッ♡
これ以上
ボクのッ……♡

振動挟撃ッ♡
回避不能ッ♡

放せえ♡

いずれは
この星中のコロニーが
貴女と繋がることも

私^{わたし}も……ッ

異形種の手^てに

た……
耐え切れない
……ッ

クリに……イ……
……ひいッ♡

くッ……
クリ……がッ♡

ああ……
それが一体どれ程の
快楽を生み出すか

こん……な……
……快楽量……ッ
抗う……
な……ど……

不

可

能

想像しただけで
心躍るでは
ありませんか

……そ……

も……

……

……

……

……

それでも!!!!

…私はッ—

私の使命はッ—

終わ…れ
…ない…



こんな……ッ
所で……え……ッ

フフ……

守……る……

……人類……

全く
恐れ入りますよ

は……かせ……

その使命感
だけは……

今なお
我々の自由には
なりません

数多くの実験と
深蝕を繰り返しながら



その抗いが
異形種の

未来を
紡いでくれるの
ですから――



END

OSG・F-10

約100年前の時点における最新型。
一騎当千の力を持つOSGシリーズの戦闘能力を更に向上させ、
戦局の打開を目指して作られた機体。

運動性を維持出来る範囲で限界まで小型化した結果
霊気脈の密度と純度が飛躍的に高まり、まだ未完成ではあるが
従来OSGとは一線を画す霊力を具えるに至った。

だがその半面、淫化した際の快樂量も従来機以上に
感じ取ってしまうようで、『深蝕』という牙を得た
変種に対しては諸刃の剣にもなり得る。

また従来機と同様、人命保護の絶対コマンドも組み
込まれており、戦闘により対象に危険が及ぶ可能性
がみられる場合、その行動は制限されてしまう。

(この際、人間の上位者による制限の一時解除や
複数機による制限緩和は可能)

異形種との異種間戦争において
明らかに不利な命令ではあるが、
実際にはこれはOSGの反乱防止
という意味合いが大きい。

人類を滅ぼす異形種を狩る
彼女達もまた、人類を滅ぼし得る
力を有している……。
一部の上位者はそう考えたのだ。



右上の図はOSG基礎スーツのみの無兵装状態であり、
本来は各所の円形ジョイントに霊装アタッチメントを
装着する事で戦力の大幅増強が行える。

しかしOSGが高密度な霊気脈により半永久的に活動可能な一方、
霊装にはメンテナンスが必要である。
人員はおろか、ろくな設備も残っていない荒廃した星で、まともな
装備がどれほど残っているかは疑問である。

特に小型機であるF-10には専用の霊装が必要であり、当機の完成前に人類が撤退
していた以上、そもそも左図のような装備までは作られていなかった可能性が高い。

ブリッツラビットフォーム
F-10 突撃兎兵装

リオ博士



霊子理学 (霊力の原理と応用
を突き詰める学問) の
権威であり、OSG開発に
おける中心人物の一人でも
あった女性。



F-10をその型番から「フィオ」の愛称で呼ぶなど、OSG達と友や娘のように接する心優しい人間であり、彼女達を戦わせること、絶対的な人命保護コマンドで縛ることを心苦しく思っていた。

人類の移住計画発動後、僅かに残された人間はもちろん、多数のOSG達を見捨てることが出来ず母星に残り、彼女達に出来る限りのバックアップを施していた。だが絶望的な戦いの中、眠りの中にあるF-10を目覚めさせるのには抵抗があったようだ……。

なお、霊子理学の応用により、小型の異形種から身を守る程度の能力もあつたらしい。



元は大規模抗戦時に大隊規模のOSGを指揮するため作られた隊長機タイプであり、人類移住後も暫くは博士を守りながら戦いを続けていた。

ついに敗れ囚われたプラントでは、その処理能力の高さから淫化ネット実験のコアにされ、60年以上に渡って絶頂かされ続ける事となる。

だが増え続ける鹵獲OSGからの同調快樂が数百体分を超えた時、とうとう彼女は壊れてしまう。

以降は淫化プラントを統括する異形種の、何代目かの依り代として使われる事となった……。



OSG D-17a



□発行日・2022/8/14
□発行元・灯夜工房（灯ひでかず）
□連絡先・tomosibi18@hotmail.co.jp
□印刷・ねこのしっぽ様

18歳未満の購入・閲覧、及び無断転載は禁止
なお、触手姦は（おそらく未来においても）犯罪です
触手の生えた宇宙人、淫魔を召喚できる超能力者
間違ってもその力を人に向けないで下さい



灯夜工房 発行
戦闘人形の使命 姦
十八歳未満ノ
本書閲覧ヲ禁ズ